

難民とセクシュアリティ

工藤晴子

神戸大学大学院国際文化学研究所

概要

「難民」と呼ばれる人々の背景や状況は実に多様ですが、近年特に、人道支援分野においては「LGBTIQ+」と総称される性的マイノリティの難民の保護が、重要課題として認識されています。しかし、これまで入国管理においては、非規範的とみなされるジェンダーやセクシュアリティと結び付けられる人々は、むしろ、望ましくない「非市民」として区別され、排除の対象となってきました。アメリカ合衆国での調査をもとに、強制移動と呼ばれる現象のなかにセクシュアリティの問題がどのように規定され、保護の対象として立ち現れてきたのか、また、そうした移動を性的マイノリティの人々はどのように経験し、語るのかについてお話しします。クィア移住研究というアプローチから、特定のセクシュアリティやジェンダーを非規範的とみなす枠組みや、複数の交差する権力関係をあきらかにしつつ、難民の保護や難民というカテゴリーについて考えたいと思います。

内容

1. 性的マイノリティの難民
2. 研究の概要：目的、問い、方法——難民・強制移動研究とクィア移住研究
3. 国境管理とセクシュアリティの規範
4. 庇護のポリティクスと「LGBTQI+難民と庇護希望者」
5. 難民の人々の経験と語り